鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文だより

第６６号
平成２７年　２月１３日発行

調査区全景

導水路の石蓋

麓川沿いの石垣

堰堤と麓川

近代鉱業の先駆け

県道頴娃知覧線（知覧道路）改築事業に伴う発掘調査が進められている金山水車跡で，数多くの遺構が発見されています。この遺跡は，南九州市知覧町麓川河畔の轟に建設された「宮内鉱山轟製錬所」の跡で，水車の動力により鉱石を粉砕し，製錬を行っていました。明治の終わりから昭和のはじめにかけて動いていた製錬所関連施設の石垣や，水車が回転していたと思われる溝，天然の甌穴（ポットホール）を利用した排水施設などが明らかになってきています。

これらの遺構群は，その重要性が評価され現地に保存されることになりました。今後の活用が期待されます。

（２ページに関連記事）

目　次

・近代鉱業の先駆け……1
・遺跡詳解（金山水車跡）……2・3
・発見！発掘速報……4・5
・遺跡公開！現地説明会開催……6

遺跡詳解

金山水車跡（南九州市）

平成 26 年 11 月 22 日（土）に，表紙でも紹介しました金山水車跡で現地説明会が開かれました。当日は，620 名という多くの方が見学に来られて近代の遺構の迫力を間近に感じていました。ここでは，その遺構を詳しく解説します。

遺跡全景（空中撮影）

麓川をせき止める堰堤から，水が導水路へと流れていきます。

金山水車跡は，明治末期から昭和初期にかけて操業していた製錬所の跡です。直線距離で約 8km 離れている赤石鉱山から，荷馬車で運んだ鉱石を水車の動力を利用して細かく砕き，金や銀を取り出す作業（製錬）を行っていました。

当時の技術者たちが，水の豊かな麓川や加工しやすい岩盤等，水車利用に適した自然地形に着目し，この場所を選んだと考えられます。岩盤を人力で数 m の深さまで掘削した水車坑や排水溝は，当時の技術の高さを物語っています。

導水路から流れてきた水，は放水口で流れる量を調節されます。

※これらの部分は，上の空中撮影のときにはまだ発掘されていませんでした。

放水口から先の導水路は石のふたで覆われています。右の写真で水は，奥から手前に流れてきます。

石のふたの多くは，土の重みなどにより中央部で折れてＶ字形になっていますが，当時はもちろん平らでした。上の写真で水は，手前から奥に流れてきます。

石のふたが途切れたところに，水車坑へ続く分水路の入口（取水口）があります。上の写真のように水止め板がとりつけられるように溝があります。

取水口を過ぎた水は，さらに導水路を流れ，調査区の境にある分水路へと向かいます。

導水路の横にある岩壁には，建物の横木を入れた穴が規則正しく並んでいます。

左の写真のほぼ中央部の建物に，水車の一部が見えています。その右隣の建物の中に，今回の調査で明らかになった水車がありました。
（写真提供　南九州市教育委員会）

川沿いの石垣は，形がそろった石材でできている部分とそうでない部分に分かれています。作った時期の違いによるものと思われます。

水車の力で杵を動かし，臼に入れた鉱石を砕いていた砕鉱所があった場所で，砕かれた鉱石は搗鉱所に運ばれ，さらに細かくされます。

分水路を流れてきた水は，木でできた水路（木樋）が取り付けられていた出水口から勢いよく流れ出て水車を回しました。

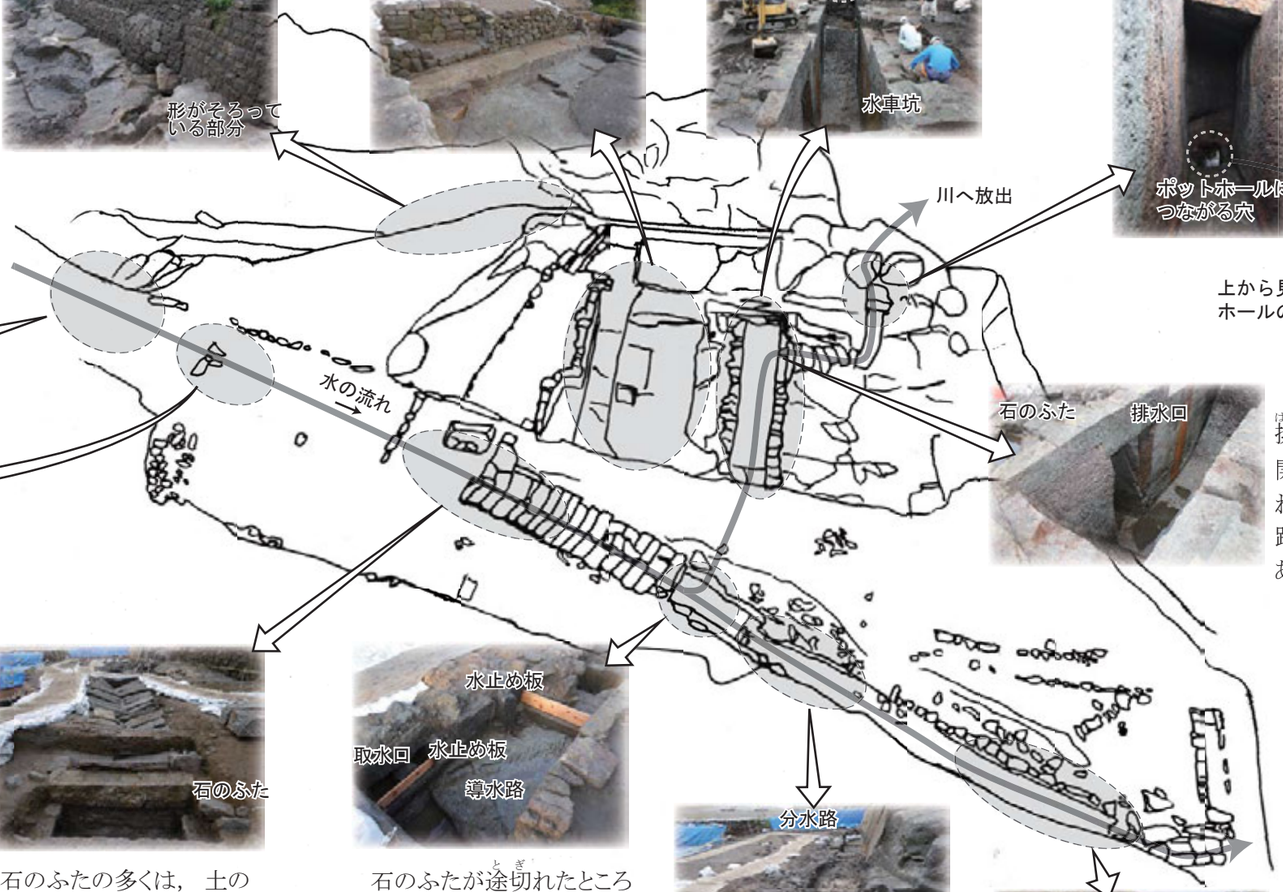
水車坑の中から出水口を見上げたようすです。写真正面の壁は，水車に合わせて曲面になっています。出水口にはまだ土がつまっています。

水車坑から流れ出た水は，放水口の前にあるポットホール＊（甌穴）に流れ込みます。その後，放水口から川に戻ります。

上から見たポットホールの中

水車を回した水は，排水口から川に向って開いた放水口へと流れていきます。排水路の上にも石のふたがあります。

水車坑の中から見た排水口のようすです。かなりの高さがあることがわかります。



＊ポットホール
川底の岩のくぼみの中に小石が入ると，水の流れによって小石が回転するためくぼみを削り，丸みを帯びた円形の穴になったもの。

発見！発掘速報

県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターでは，今年度も県内各地で発掘調査を行っています。たくさんの成果が得られていますので，その一部を紹介します。

❶ 近世の土木工事跡？
～中津野遺跡～（南さつま市）

今年度の中津野遺跡の調査では，南北に沿って杭列が検出されました。この杭列は，群杭列と敷粗朶・敷丸太といわれる加工木と自然木を併用した盛土の基礎構造です。干拓地の堤防や道路など，大規模な土木工事が行われた跡と考えられます。陶磁器や古銭（寛永通宝）等の遺物が出土したことから，江戸時代の遺構である可能性が高いと思われます。

杭列

先が加工された杭

❷ 新たな資料の発見
～京の塚遺跡（大崎町）～

京の塚遺跡では，縄文時代前期末～中期初め頃（約 5,000 年前）のものと考えられる 150 基を超す土坑群とともに，土器，石器（石鏃・石匙など）が多量に出土しています。土器のほとんどは深浦式土器とよばれるものです。この時期の遺物がこれほど充実して発見された例は少なく，今後の研究に新たな資料を追加することになると期待されています。

土坑

発掘作業中の土坑

❸ 石坂式土器の変遷が見えてくる？
～下原遺跡～（志布志市）

下原遺跡では，旧石器時代から縄文時代後期までの土器や石器が見つかりました。縄文時代早期の調査においては，石坂式土器（約 8,500 年前）や石鏃（やじりの先）や磨石などが出土しました。下原遺跡から出土する石坂式土器は様々なバリエーションがみられるので，今後の整理作業において石坂式土器の変遷について見えてくるかもしれません。

遺物の出土状況

旧石器時代の調査

❹ 出水へ運ばれてきた縄文土器
～前原遺跡～（出水市）

出水市の前原遺跡では縄文時代中期から近世までの遺物が出土しました。縄文時代中期の土器の中には東海地方で作られた土器や，近畿・瀬戸内地方，九州北部などで作られた可能性のある船元式土器が出土しました。ここにくらした大昔の人々も遠方との行き来があったのかもしれません。

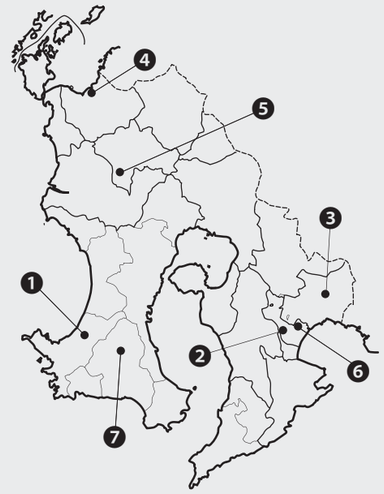
発掘現場（手前）と八代海（奥）

❺ 悲劇が伝わる中世の山城
～虎居城跡（さつま町）～

石塔と石のまとまり

虎居城跡は薩摩郡さつま町宮之城屋地に所在する中世の山城です。今年度は 2×5m程度の調査範囲を約40か所設定し，発掘調査を行いました。調査の結果，曲輪の中に土塁と呼ばれる高まりや入り口となる虎口や建物の柱の跡，火を使った痕跡などが発見されました。また，青磁や白磁といった中国産の磁器などが多く発見されました。八女壇と呼ばれる曲輪には，石塔を含む石のまとまりが 8 か所検出されました。このすぐ横には，八女の瀬があり，虎居城の城主であった祁答院澁谷氏（9代徳重）の娘が川で溺れ，その娘を助けようと7人の女中が川に入り全員が溺れてなくなったという言い伝えがあります。

4･5ページで紹介した遺跡の位置



…県立埋蔵文化財センターの発掘調査

…（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査

❻ 起伏の多い縄文時代早期の遺跡
～平良上C遺跡～（大崎町）

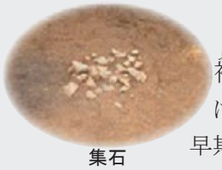
平良上C遺跡では，縄文時代早期（9,000 ～ 7,500 年前）の調査を行っています。石鏃や石匙，石斧，磨石，石皿など多くの石製品とともに，吉田式・石坂式・下剥峯式・押型文土器・平栫式など多くの種類の土器が見つかっています。遺跡全体は小高い丘になっており，調査を進めてゆくと，人々が暮らしていた縄文時代早期は現在よりもさらに傾斜が急だったことが分かりました。そのため調査範囲の最も低いところはとても深い谷になりました。

出土した土器

起伏に富んだ地形

発掘調査中

❼ 旧石器時代から現代までの活動の跡
～牧野遺跡～（南九州市）


集石

牧野遺跡は，旧石器時代，縄文時代，古墳時代，近代の複合遺跡です。旧石器時代では火を使った礫群，縄文時代では，アカホヤ火砕流堆積物（約 7,300 年前）の下から縄文時代早期の土器，石器などとともに集石が 34 基発見されました。近代では，麓川沿いに作られた金の製錬所への道路跡や，1930 年（昭和 5 年）から 1965 年（昭和 40 年）まで使われていた南薩鉄道の線路敷きも発見されました。

大量に発掘された遺物

集石とその周辺

遺跡公開！現地説明会開催

（公財）埋蔵文化財調査センター

川久保遺跡

12月20日（土）に，川久保遺跡（鹿屋市）で現地説明会が開催されました。この日の朝まで降っていた雨も開始時刻までには上がり，200名を超す見学者が来場しました。住居跡や土坑墓などの説明を聞きながら興味深く観察したり，写真を撮ったりしていました。

川久保遺跡では，古墳時代後期の鍛冶関連建物跡やそれに関連する鞴の羽口などが発見されたほか，中世の掘立柱建物跡が30棟以上発見されるなどの成果が得られています。これらを，今後検討していくことで，それぞれの時代についてより多くのことがわかってきます。

縄文の森企画展 好評開催中

上野原縄文の森第41回企画展「古墳時代のかごしま～1,500年の時を越えて～」が開催されています。古墳と言えば，埴輪を思い浮かべる方も多いと思いますが，古墳の警護人ではないかと考えられている，神領10号墳（大崎町），百足塚古墳（宮崎県新富町），仙道古墳（福岡県筑前町）などで出土した武人埴輪のほか，県指定文化財の短甲や衝角付冑，刀子，銅鏡，勾玉など，31遺跡163点が展示されています。休日になると多数の歴史愛好家や家族連れが訪れて興味深く見学されています。鹿児島の古墳時代が身近なものになる絶好の機会ですので，是非，上野原縄文の森にお越しください。なお，この企画展は平成27年3月22日（日）が最終日になります。

埋蔵文化財専門職員養成講座

1月22日（木）・23日（金）の両日，市町村教育委員会の職員を対象とした上級講座を開催しました。今回の講座では，全国および鹿児島県内における近代遺跡の発掘調査事例を取上げ，その成果と課題を紹介すると共に，調査後の活用についても意見交換をおこないました。22日は午前中に文化庁記念物課史跡部門の浅野啓介文化財調査官から「全国における近代遺跡の取扱いについて」という講義があり，午後からは県内の3件の事例報告を受けた後，質疑応答や全体討論をおこないました。23日は，南九州市に場所を移し，2か所の近代遺跡の現地視察をおこないました。今後の近代遺跡調査について，より実践的な講座になったと思います。

当センターの見学は，土曜・日曜・祝日・年末年始を除き，毎日午前9時～午後5時まで，入館料は無料です。

なお，当センターのホームページは，鹿児島県教育委員会（http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/）または，上野原縄文の森(http://www.jomon-no-mori.jp)からお入りください。

検索キーワード　上野原縄文の森　検索　クリック

埋文だより　第66号
発行日　平成27年2月13日
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:http://www.jomon-no-mori.jp
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp